



バルバス・パウ (球状艦首)

今回は、10分の1「大和」の先端部分に注目してみましょう。



なにでっば 何か出っ張っているね!



世界最大のバルバス・パウ (球状艦首)

大きな丸い球がついているような部分を、バルバス・パウ (球状艦首) といいます。船が進むと水面に波が起こり、船が進むのを邪魔する力が発生します。これを「造波抵抗」といいます。速度が速いほどこの造波抵抗は大きくなります。そこで、バルバス・パウの出番です。バルバス・パウは、大きな丸い部分で波を起こし、進むときに起こる波を利用することにより、造波抵抗を減らすのです。これで燃料も節約できますね。

▶一口メモ  
 当時、他の船にもバルバス・パウは採用されていましたが、「大和」の場合、飛び抜けて大きかったのです。

「大和」は他の戦艦と比べて、長さが短く、幅が大きい形をしていたんだ。この形だと、速く進むのは難しいけど、防御力や安定性能、船体抵抗の釣り合いから、仕方がなかったんだ…

そこで、少しでも速く進めるように対策したのが、このバルバス・パウ (球状艦首) だったんだね!!



航空母艦 (空母) は、飛行機を運ぶ船だよ!



ちなみに…戦艦「大和」の最大速力は27ノット!!

▲バルバス・パウが採用された航空母艦「翔鶴」

▲宿毛湾沖で公試運転中の戦艦「大和」(昭和16年10月)